



作文 優秀賞

「みんなが笑顔家庭の日」

御船小4年 松田 愛美

わたしは、みんなが笑顔になるには、どうすればいいか、考えたら、3つのアイデアが浮かびました。

一つ目は、やさしさを大切にする事です。やさしさが無い家族は仲が悪いし、ケンカもたくさんあると思うし、なにかの取り合いなどがたくさんあるから、でも、やさしさなどがいっぱいあれば、楽しいことだつて、たくさんあるし、仲がいいし、ケンカもしないような家族ができると思うたからだと思います。

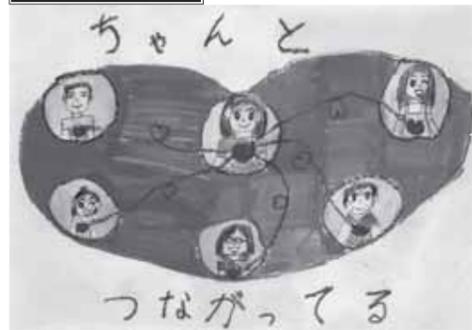
二つ目は、自分を中心にして、自分を中心にすると、親もたぶんやがるし、友達もいやがると思うからです。おじいちゃんおばあちゃんもしんせきなど

いつもお世話になっている人もいやがるからです。年が友達の中で一番大きいからだと身長が一番高いからとか、自分を中心にする、家族、友達、しんせき、いつもお世話になっている人とかから、笑顔がなくなっていくからです。わたしは、自分のせいでみんなから、笑顔がなくなっていくのは、とてもいやなことが心に残るので自分を中心にしない方が、わたしのためにも、みんなのためにもなるからだと思います。

そして、最後の三つ目は、協力することです。わたしは協力し合うことで家族がたたくさんの笑顔でいっぱいになると思うからです。たとえばおはんを食べるときに妹やお父さん、お母さん、きちゃんと食べているのにわたしだけ、テレビを見ているのではなく、4人で、もしくは5人で食たくをかこむとたのしくおしゃべりをする事ができるからいいと思います。

- 標語
- 小中学校の部
- 【最優秀賞】 あたたかい 家族のひと言 ほつとする 木倉小5年 増永 萌乃
 - 【優秀賞】 おはようて 朝のエンジン 全開だ 御船小4年 本田 颯汰
 - はなそうよ がっこうのこと かぞくにね 木倉小2年 田端 華怜
 - お手伝い 家族でだんらん 家庭の日 御船中1年 内村 裕香
 - 【奨励賞】 家族の言葉 いつもやさしい ありがとう 滝尾小6年 本田 佑介
 - 朝おきて 家族で体そう いいきもち 木倉小4年 市原 寛士
 - 夜ご飯 いっぱいおしゃべり 笑みこぼれ 木倉小5年 大山 智子
 - 楽しいな かぞくておふる あわだらけ 高木小2年 萩坂 瑠奈
 - おてつだい みんなですると たのしいな 高木小2年 竹野 碧
- 一般の部
- 【優秀賞】 まず家庭から 目線を合わせて あいさつを 本田 睦男(高木)
 - 正しい社会への第一歩は 家庭から 吉澤 洋介(上野)

絵画 奨励賞



「みんな仲よしかぞく」 小坂小2年 緒方 敦望

家族の愛と絆

町は、御船町「家庭の日」推進メッセージ作品に、作文の部で御船中3年の倉岡紗有未さんと、標語の部で木倉小5年の増永萌乃さんの最優秀2点を含む14点の賞を決定しました。作品は、作文や標語、絵画の部に総数327点が応募され、審査されました。ここでは、「家庭の日」をテーマとした心温まる作品の数々をご紹介します(順不同、敬称略)。

「家族」

御船中3年 倉岡 紗有未

わたしは家族をテーマにこの作文を書きます。家族って一体何だろう、親子って何だろう。わたしは最近このような謎を持つことが多くなりました。

わたしはあるニュースを見ていて、わたしと同級生の子どもが自分の親を殺したというニュースをみました。ニュースをみただけではどうもに非があつたのかは分かりません。もしかしたら、親子が子どもに暴力をふるつていて、子どもが勢いで殺してしまつたのかもしれないし、ただ、親が嫌いで殺してしまつたのかもしれない。でも、何か一つでも親子の間で楽しい思い出があつたりしたら、このようなことが起こつたりしないと思います。親と子が互いにおもいやり、日々の会話をしっかりすれば、ずっと仲良く、良い関係ができるんじゃないかとおもいました。でも、どんな理由があつ

ても人を殺してはいけないと思います。殺したつて何かを解決するわけじゃないし、人を恨むことは簡単だけれど、恨み続けることはきつと無理なことだと思います。

しかし、一方で、母と子の母子家庭で、一生懸命に働いて子どもを必死に育てる母親とその母親をしつかり見て育てて自分母親にあらがれているという子どもの親子をみました。母親はいつも仕事で子どもと一緒にいられないで、欲しい物も買つてあげられなくてとても申し訳ないといつも言っていました。しかし子どもは、お母さんが大好きだから、全然さみしくないと、おもちゃもいらぬ、ただお母さんとずっと一緒にいたいと言っていました。この親子の間には何があるんだろう。逆にニュースでみた親子には何があつたんだろうと思つていました。



母子家庭の親子にはあつてニュースでみた親子にはなかつたもの、それは「絆」だとわたしは思います。互いに思いやり、相手を大切に思う気持ちがあれば絆が成立すると思います。母子家庭の親子は、一緒に暮らせるだけでいい、お金がなくなつて幸せなんだと繰り返して返します。でもわたしたちは自分なんだろう、わたしは自分の家族のことについて考えることにしました。

わたしはお母さんに、「わたしに何か求めるものがあるとしたら、何を求める？」と聞いたら、「何もいらぬ。生きていてくれたらそれだけで十分だよ。親はみんなそう思つてるよ」と言っていました。わたしはそれを聞いて、

わたしはお母さんに大事にされてるんだと思つて、そしてもう一つ質問しました。「わたしが死んだらどうする？」と聞くと、笑いながら「あんたは死なないよ！」と言ひ、その後涙を流しながら、「でも、本当に死んだら、お母さんは生きていけない。おばけでもいいからそばにいて、一緒に笑つてほしい」と言ひました。わたしはその言葉を聞いて泣きそうになりました。こんな質問をしてごめんと思ひました。